往昔寛政享和ノ際、測量家伊能勘解由、享保尺ト、又四郎尺トヲ、長短折衷シテ此度ヲ造リ、以テ度地ニ用フト云フ、蓋シ中世以降、尺度器法、漸々訛替シ、種類紛雜、濫製百出スルニ至ルニ及テ、眞僞辨ジガタク、正否分クルニ由ナシ、於是乎長短折衷、以テ一時ノ便ニ供ス、亦是不得止ニ出ルノ度ナリ、然シテ此尺、長ト短トノ間ニアルガ故ニ、近世尺度器法ノ伸縮スルモノ、坊間散布ノ器ノ如キハ、之ト相密合スルモノ居多ナリ、斗量ノ如キハ、其製作、從來容量ヲ以テ準トスルガ故ニ、所用尺度ハ、頗ル杜撰ニ屬スルト雖ドモ、今之ヲ檢査スルニ、從來斗量ノ容量ハ、此尺ヲ以テ造ル幾ンド密トス、今其長短折衷ノ算ニヨリ、又四郎尺正器一尺二厘ヲ以テ、此度ノ正器トス、

念佛尺

〔本朝度量權衡考度〕今ノ曲尺ハ、唐大尺ノ三分訛長セシモノト知ルベシ、今ノ曲尺ニ、工匠ノ用フル、鐵尺ト竹尺トノ二ツアリ、竹尺ハ京ノ六條ニテ作ル、念佛尺ト云フヲ精好ナリトテ賞シ、他國ニテモ是ヲ摹シ造レドモ、工匠ノ鐵尺ニ比レバ七厘許長シ、

〔法規分類大全一篇政體〕尺度種類廢置ノ議

念佛尺

嘗テ近江國伊吹山ヨリ、念佛塔婆ヲ堀出セシコトアリ、其塔婆尺度ヲ刻ス、乃チ之ヲ摸シ、以テ念佛尺ト名ク、此度法、享保尺ニ密合スト云フ、

量地尺

〔地方新書〕或書に、量地尺念佛尺享保尺は、ともに曲尺より四厘を強くす、訛長なるべけれど、是亦一種の度なり、

〔法規分類大全一篇政體〕尺度種類廢置ノ議

量地尺

古へ令ノ大尺ヲ或ハ量地尺ト稱ス、大寶令、度地大尺ヲ用フルガ故ナリ、今曲尺一尺四厘ノ度ヲ量地尺トナスハ誤ナリ、